

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年 国語139人 算数139人 理科139人

第5学年 国語126人 算数126人 理科126人

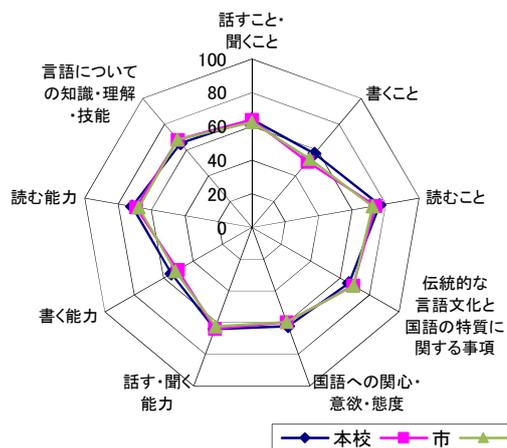
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	64.1	64.0	62.5
	書くこと	57.3	50.9	53.1
	読むこと	76.4	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.9	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	62.4	59.9	59.7
	話す・聞く能力	64.1	64.0	62.5
	書く能力	54.7	50.4	52.0
	読む能力	71.6	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	65.3	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

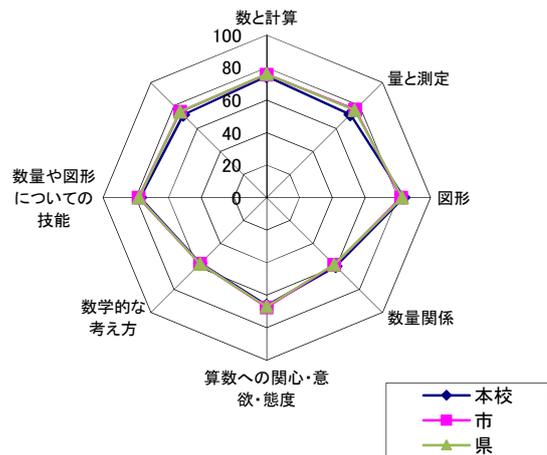
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話し合いの内容を聞き取る問題では、話し方の工夫に注意して聞き取ることができており、県の平均正答率を8.8ポイント上回った。</p> <p>○インタビューの質問のねらいを理解することができるかを問う問題では、県の平均正答率を5.4ポイント上回った。</p> <p>●話題に沿った意見と理由を考えて話すことを問う問題では、県の平均正答率を6.9ポイント下回った。</p>	<p>・自分の意見を簡潔に述べたり、自分の考えや伝えたいことを要点をまとめて書いたりする練習を、普段の授業の中で取り入れて行く。</p>
書くこと	<p>○書こうとするものの中心を明確にする問題では、県よりも12.4ポイント上回った。</p> <p>○理由や事例を挙げて文章を書く問題では、県よりも8ポイント上回った。</p> <p>●指定された長さで文章を書くことができるかを問う問題では、県よりも7ポイント下回った。</p>	<p>・決められた時数で書いたり、まとめたりする練習を普段の授業で取り組ませていく。</p>
読むこと	<p>○登場人物の気持ちを読み取る問題では、県よりも7.9ポイント上回った。</p> <p>○目的や必要に応じて、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る問題では、県よりも6.4ポイント上回った。</p> <p>○文章の内容を的確に読み取る問題では、県よりも3.9ポイント上回った。</p>	<p>・物語の叙述から登場人物の特徴を捉えることや、登場人物同士の関わり合いや気持ちの変化を考えていく活動を意図的に行い、経験を積ませていく。</p> <p>・説明文において、段落ごとに要点を的確に読み取る活動を継続的に行い、経験を積ませていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○漢字の読み問題では、全ての問題で平均正答率が約90%と高い。</p> <p>●漢字の書く問題では、「農業(のうぎょう)」という漢字の平均正答率が26.1%と低い。県よりも21.7ポイント下回った。</p> <p>●文の構成「主語と述語」の問題では、平均正答率が36.2%と低く、県よりも16.5ポイント下回った。</p>	<p>・文章を書く際に、主語と述語を意識させるとともに、日頃から主語と述語の組み合わせについて考える機会をもたせるようにする。</p> <p>・国語辞典で、日頃から授業の中で辞典を使うことを習慣にし使い方を理解できるようにする。</p>

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.6	75.8	76.1
	量と測定	72.3	76.5	76.0
	図形	83.6	82.1	82.7
	数量関係	59.7	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	66.4	67.4	67.0
	数学的な考え方	57.2	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	77.2	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	72.1	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

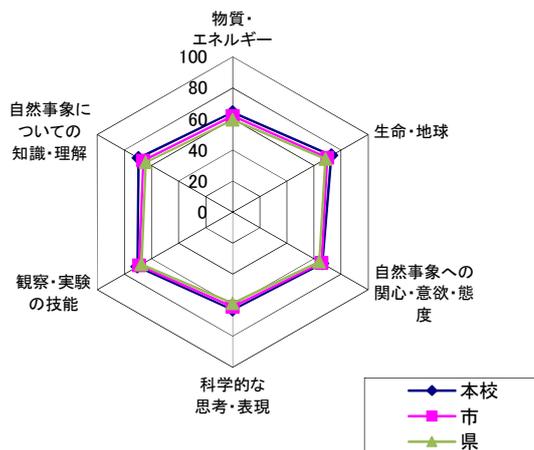
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○2けた+2けた=3けたの計算では、平均正答率が99%を超え、県の平均正答率を4ポイント上回った。 ●数直線上に示された分数を読み取る設問では、県の平均正答率を8.6ポイント下回った。	・数直線上に表された分数を読みとる学習では、示された分数が1を何等分したものかはっきりさせ、数直線をかいたりかかれた数直線を読んだりする活動を行うようにする。
量と測定	○2つの時刻を比較して、その間の時刻を求める問題では、県の平均正答率とほぼ同等であった。 ●1分=60秒の関係を理解している問題では、県の平均正答率を9.9ポイント下回った。	・時刻や時間の学習では、具体物の活用や、生活の中の場面を想起させることで、単位と時間の変化を結び付けて実感をもって理解できるようにする。
図形	○円の直径について理解している問題では、県の平均正答率を2.3ポイント上回った。 ●球の半径から、球が2個入った箱の辺の長さを求める問題では、県の平均正答率を1.1ポイント下回った。	・円や球の半径と直径の関係についての学習では、実物の操作や視聴覚教材の活用、求め方の説明をする活動などを行うことにより確実に理解できるようにする。
数量関係	○棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して、棒グラフをかくことができない理由を説明する問題では、県の平均正答率を5.2ポイント上回った。 ●□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶ設問では、県の平均正答率を1.6ポイント下回った。	・文章問題で式を立てる時に図や数直線を用いて考え、正しい式を立てられるようにする。

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	64.3	61.9	59.4
	生命・地球	72.8	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	66.3	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	63.0	61.0	58.8
	観察・実験の技能	70.3	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	69.4	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○はね返した光を重ねたところの明るさを答える設問では、県の平均正答率を10.7ポイント上回った。</p> <p>○磁石のどのような性質かを調べるための実験に関する設問では、県の平均正答率を8.0ポイント上回った。</p> <p>○電気の通り道は何というかを答える設問では、県の平均正答率を20.9ポイント上回った。</p> <p>●電気工事をしている人がゴムの手袋や長靴を使用する理由を説明する設問では、平均正答率が38.4%と低かった。</p> <p>●豆電球がつかなかった理由を推測する設問では、平均正答率が42.0%と低かった。</p>	<p>○学習したことが日常生活のどの場面で生かされているかを考えさせる時間を、授業で設けるようにする。</p> <p>●電流の性質について復習するとともに、自分で考えながら回路を作る経験をさせるようにしたい。また、いろいろな問題に取り組むようにさせたい。</p>
生命・地球	<p>○太陽と地面のようすについて考察する問題では、県の平均正答率を14.5ポイント上回った。</p> <p>●こん虫の育ち方について考察する問題では、県の平均正答率を5.6ポイント下回った。</p> <p>●植物の育ち方におけるホウセンカの育て方を問う問題では、県の平均正答率も26.5%と非常に低いが、本校はさらに4.8ポイント下回った。</p>	<p>●実際に育て、観察できる環境を整え、成長過程ごとに観察を行っていくことで正しい観察の仕方を覚え、正しい知識の定着を図る。</p> <p>●種の大きさによって蒔き方が違うことを確認し、実際に種を蒔く際に確実に指導することで定着を図る。</p>

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「1か月に、何冊くらい本を読むか」の質問では、県・市町村に比べて、5～11冊以上本を読む人の割合は9%低いが、1冊も読まない人の割合も少ないことから、全体的に見ると少しでも読書をしていることが分かる。今後は、朝の読書や国語の授業などを通して、本に触れる機会を設け、たくさんの本を読めるよう働き掛けていきたい。

○「算数の授業の内容はよく分かりますか」については、県の平均を7.2%上回っている。3年生から算数の時間に行っている、少人数指導や習熟度別学習の効果が表れていると思われる。今後も引き続き、少人数指導に取り組んでいきたい。

●「家で学校の復習をしている」の質問では、肯定的に回答した児童は55.4%で、県の回答よりも8.1ポイント低かった。これまでも自主学习として復習をすることを勧めてきたが、実際のノートの書き方を例示するなど、復習の仕方を具体的に指導していきたい。

●「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」の質問については、市、県の平均を下回っている。家庭学習への意欲を高めるためにも、自ら取り組みたくなるような内容を吟味していきたい。

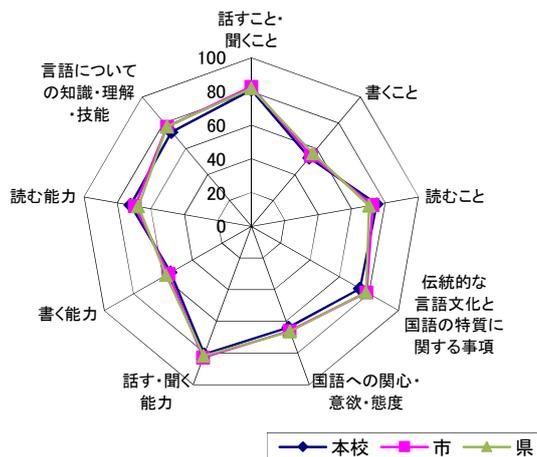
●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは辞書を使って調べている」の質問では、県や市の肯定的回答の割合を下回っている。4年生になってから学校園の取組として、校内での辞書活用を勧めているので、今後は家庭学習にも辞書活用を推奨していきたい。

●「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」の質問では、県や市の肯定的回答の割合を下回っている。このことから、国語や学級活動の時間を中心に、話し合いや自分の考えを発表する機会を設けることによって、協同の学び合いができる環境を作っていきたい。

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	80.9	82.9	81.8
	書くこと	53.2	54.8	56.5
	読むこと	75.0	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.0	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	63.9	66.0	66.4
	話す・聞く能力	80.9	82.9	81.8
	書く能力	54.8	56.3	57.9
	読む能力	72.1	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	73.0	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

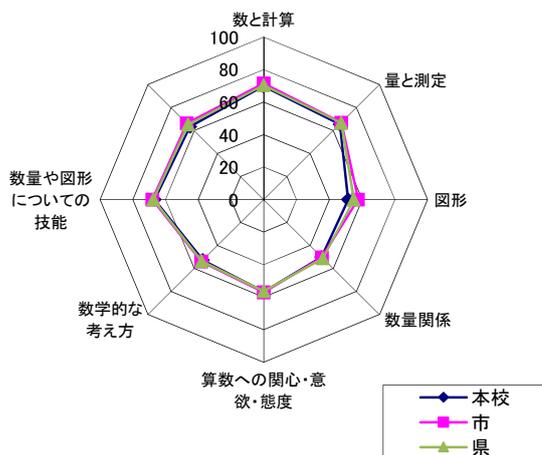
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●司会の役割として参加者の発言の共通点をまとめる設問では、県の平均正答率を1ポイント下回った。	・話し合い活動を通して、要点や話し方の工夫を意識して聞き取ったり、自分の考えを述べたりする活動を多く取り入れるようにする。
書くこと	○意見を基にポスターの文を書く設問では、県の平均正答率を9ポイント上回った。 ●書こうとすることの中心を明確にして文章を書く設問では県の平均正答率を12.7ポイント下回った。	・目的意識をもったり、段落構成を意識したりして書く活動を、授業の中で積極的に取り入れていく。 ・日頃の授業や家庭学習の中で、書く活動を積極的に取り入れていく。 ・相手の意図していることを考えながら、資料をしっかりと読み取る学習を、国語だけでなく社会などの他教科でも取り入れていく。
読むこと	○段落のまとまりを理解して、文章の内容を的確に読み取る設問では、県の平均正答率を14.2ポイント上回った。 ○文章の内容を的確に読み取る設問では、県の平均正答率を5.4ポイント上回った。	・引き続き、段落ごとの要点をまとめたり、全体の構成を捉えたりして、説明文の指導をしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●漢字の読み書きの設問では、県の平均正答率をやや下回っている。 ○文の構成について理解する設問では、県の平均正答率とほぼ同じであった。	・授業や朝の学習で、定期的にミニテストを行い定着を図ったり、漢字の読みや書き順を丁寧に指導したりしていく。また、家庭学習で繰り返し積み重ねていくようにする。

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.8	71.5	70.4
	量と測定	65.6	67.0	66.9
	図形	51.5	57.6	55.0
	数量関係	49.9	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	56.6	57.0	56.3
	数学的な考え方	52.7	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	66.7	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	63.5	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

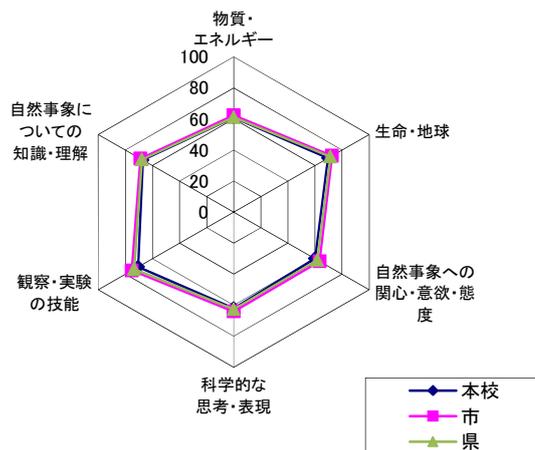
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○数直線上に示された分数を読み取る問題では、県の平均正答率を4ポイント上回った。</p> <p>○小数第1位×整数、および小数第2位÷整数の計算の問題では、県の平均正答率を5ポイント上回った。</p> <p>●十進位取り記数法の問題では、県の平均正答率を5ポイントほど下回った。</p>	<p>・十進位取り記数法の問題などに、授業や朝の学習などで繰り返し取り組ませることで、知識の定着を図れるよう指導していく。</p>
量と測定	<p>○身近なある物のおよその面積を求める問題では、県の平均正答率を9ポイント上回った。</p> <p>●分度器の中に示された角の大きさの目盛りを読み取る問題では、県の平均正答率を8ポイント下回った。</p>	<p>・単位と実際の物の量を結び付けて、実感をもって推測したり、実際の分度器を使って確かめたりする体験を重ねていく。</p> <p>・デジタル教科書を使い、視覚的な理解を深めていく。</p>
図形	<p>○ひし形の作図をする問題では、県の平均正答率を3ポイント上回った。</p> <p>●四角形の対角線の性質を理解する問題では、県の平均正答率を9ポイント下回った。</p> <p>●直方体のある辺に垂直な辺を理解している問題では、県の平均正答率を7ポイント下回った。</p>	<p>・実際に作業をすることで、実感をしながら理解を深められるようにする。</p>
数量関係	<p>○ともなって変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、県の平均正答率を5ポイント上回った。</p> <p>●四則の混ざった順番を考える問題では、県の平均正答率を7ポイント下回った。</p>	<p>・四則計算の仕方を改めて確認し、混合算の練習問題に繰り返し取り組ませていく。</p>

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【理科】分類・区別別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.9	62.4	61.1
	生命・地球	69.6	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	60.0	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	62.1	64.1	62.6
	観察・実験の技能	70.6	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	67.1	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○グラフから水の状態を読み取る設問では、県の平均正答率を9.0ポイント上回った。 ●電流という言葉の意味についての設問では、県の平均正答率を9.6ポイント下回った。	○グラフから読み取る設問では、県の平均正答率を上回ったが、電流などの用語の理解が不十分なため、基礎的事項を繰り返し確認して定着を図る。
生命・地球	○秋のサクラの写真から季節を問う設問では、県の平均正答率を11.1ポイント上回った。 ●正しい気温の測り方を問う設問では、県の平均正答率を13.1ポイント下回った。 ●月の形の名称や、月の動き方についての理解が県の平均正答率を下回った。	○観察対象に関心を向けさせるだけでなく、月の正しい名称や動き方、気温の測り方など基礎的事項を確認するようにする。

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分は勉強がよくできるほうだと思う」の質問では55.3%が肯定的回答をしていて、市よりは低く、県より少し高い。「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の肯定的回答が市や県を大きく上回っていることから、日々の積み重ねが自信となって表れた結果と考えられる。また、「家の人と学習について話をしている」「家の人はあなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の肯定的回答が県よりも高いことから、家族の言葉が励みになっていることが読み取れる。

○「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」の質問では、88.4%が肯定的回答をしていて、市よりも5ポイントほど高い。「疑問やふしぎにおもうことは、分かるまで調べたい」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定的回答が高いことから、興味関心をもって主体的に取り組んでいると思われる。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の肯定的回答が市や県を上回った。しかし、「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気をつけて書いている」の肯定的回答が県や市の肯定割合を下回っていることから、国語の説明文の読み取り学習に力を入れ、いろいろな教科や場面でも自分の考えを書く時間を設け、経験を積ませたい。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間読書を読みますか」の質問に対して「全くしない」と答えている児童が24%と、市や県と比べて大きく上回っている。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に対して、「1時間より少ない」「全くしない」と答えている児童が市や県と比べて大きく上回っている。また、「ふだん(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームをふくむ)をしますか」の質問に対し、「4時間以上」と答える児童が12.4%と市や県を大きく上回っている。このことから、有効な時間の使い方について、継続的な指導に努めていきたい。

宇都宮市立清原中央小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業において、めあて、まとめ、振り返りを確実にを行うための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」などのカードを各教室の黒板に準備し、どの授業でも活用できるようにしている。 ・「板書見せ合いの日」を設定し、互いに見せ合い、参考にする機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の中で目標が示されている」の設問で、肯定的回答した児童が4年生は85.4%で、昨年度より3.4ポイント下回った。5年生は92.6%で、昨年度と同程度であった。 ・「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の設問で、肯定的回答した児童が4年生は69.4%、5年生は77.6%で、どちらの学年も昨年度と同程度であった。
自分の考えをもち、豊かに表現できる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中の話合いで、ペアやグループ、全体などの形態を工夫するとともに、発達段階に応じた話し方・聞き方のスキルを身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「グループの話合いに自分から進んで参加している」の設問で、肯定的回答した児童が4年生は80.3%で、昨年度より9.1ポイント上回った。「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」の設問で、肯定的回答した児童が4年生は69.4%で、昨年度より5.4ポイント上回った。5年生は80.1%で、昨年度より3.1ポイント上回った。しかし、県や市の肯定的回答を下回っているため、今後も学校全体で取り組んでいく。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学年内で宿題の量や家庭学習の仕方をそろえる。自主学習の内容や方法を示し、よい実践のものをクラスに紹介する。 ・保護者が自主学習ノートを確認する機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の予習や復習をしている」「テストで間違えた問題について勉強している」の設問で、肯定的回答した児童が、どちらの学年でも昨年度より上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、自分の考えを述べる問題や式の意味を説明する問題などで県平均を下回るものがあった。	それぞれの児童が自分の考えをもち、互いに表現する活動の充実	各教科等の授業において、どの児童も考えをもてるようにする発問や作業用紙の工夫をする。意見の発表、順序や理由の説明など、場面に応じた話し方をする機会を設定し、スキルを身に付けられるようにする活動を取り入れる。